

| 委員会  | キッズ委員会 | 担当者氏名 | 富松清次 |
|--|--------|-------|------|
| <p>●〔現状〕</p> <p>サッカーファミリーの入り口であるキッズ年代は、各4種チームの独自の勧誘活動、地区協会またはクラブチームの保育園、幼稚園巡回指導、キッズサッカーフェスティバルなどが、サッカーと出会う場である。男子のW杯の躍進、なでしこのW杯制覇等メディア露出も多くなり、日韓W杯以来のサッカーファミリーを増やすチャンスの時期と思われる。身近にサッカーと出会える環境作り、県HPのトップページにサッカーと出会える案内コーナーを設け、近くでサッカーが体験できる環境を紹介し、協会としても取り組むことが大事である。</p>  |        |       |      |
| <p>〔目標〕</p> <p><b>5～10年後</b></p> <p>①少子化に伴い、確率的には底辺の拡大は難しいのかもしれないが、ロンドン五輪、2014W杯、2015女子W杯、2016五輪、2018W杯、2019女子W杯の盛り上がりも見据え、県FA、地区FAが協力して、あらゆる地区のすべての保育園、幼稚園へ巡回指導を繰り広げるプロジェクトを確立する。（Jリーグの山雅、AC長野の協力も得ながら）</p> <p>②数年後に「ユニクロキッズフェスティバル」（1日1,000人参加のサッカー大会、アルウィンにて）を実現する。</p> <p><b>20年後</b></p> <p>①県内すべての保育園、幼稚園に巡回指導が行きわたり、NFAキッズサッカー公認保育園などの認定を掲示する。そこには必ずキッズリーダーを取得した保育士さんがいることや自由時間に必ず園庭にサッカーボールが10個は転がっていることなどを条件とする。すべての子どもたちが必ずサッカーと行き会う入口を作り上げる。（しかしながら、最終的にサッカーを選ぶかは子どもの自由ではあるが…）</p> <p>②現在、キッズである子どもたちが成長し、20代になって指導者として戻ってこられるような環境作りも必要。（山雅、AC長野で県FAキッズ巡回を受託してもらうことで、若い指導者の雇用創出につなげる）</p> <p><b>20年以降50年後</b></p> <p>①この10年で作り上げるプロジェクトが循環化し、Jリーグの山雅、AC長野を支える町スポーツクラブが各地に誕生し、まずサッカーからスポーツをはじめることが文化となる環境にする。今の欧州、南米のように…Jリーグ100年計画が実現する。</p> |        |       |      |
| <p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>①地区FAまたは専従スタッフのいるクラブチームと連携し、保育園、幼稚園巡回指導へ地域の枠を超えた活動へ展開していく必要がある。（JFAの予算では限界があるので、有料、もしくはスポンサー獲得での活動を目指す。）</p> <p>②特にキッズ活動の遅れている地区へは県FAで支援をし、県全体で保育園、幼稚園巡回指導ができる環境作り。サッカーに興味を持ったキッズが受け入れられる体制づくりも大事なことから、地区の4種チームにはご協力を得たい。</p> <p>③キッズリーダー取得が頭打ちになってきており、今後は地区FAで取りまとめていただいたり、保育園、幼稚園の先生を目指す学校での開催、高校生対象で高校ごとに開催（他県ですで行われている）を行っていくことで、サッカーファミリーの増加にもつながる活動を計画する。（各委員会の協力を得る）</p> <p>④県FA、地区FA関係者すべてがキッズリーダーを取得し、サッカーファミリー増加の為、その入り口である最も重要なキッズ年代の大切さをもう一度認識する必要がある。</p>   |        |       |      |